

令和4年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
園芸部門

アレキで培った技術でシャインマスカットを生産、経営をV字回復

○氏名又は名称 JA 晴れの国岡山船穂町ぶどう部会（代表 浅野 三門）

○所在地 岡山県倉敷市

○出品財 経営（ぶどう）

○受賞理由

・地域の概要

倉敷市は、岡山県南部に位置している。部会がある船穂町は海拔0mの低地水田地帯から標高100mの丘陵地帯であり、気象条件は温暖、穏やかで、年間降水量が少なく、年間日照時間が2,001時間と多い、ぶどう等の施設園芸に適した地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

昭和22年にぶどう部会を設立し、昭和26年にマスカット・オブ・アレキサンドリア（以下アレキ）の栽培を開始した。高品質で人気を博し、ピークの平成9年には10億4千万円の販売額を達成したが、景気後退等により販売額は6割ほどまで低迷した。そのような中、アレキより省力的に栽培できるシャインマスカットにいち早く着目し、導入・拡大を進めた。アレキで培った栽培技術を生かして高品質を求める消費者ニーズに対応した生産、ブランド強化に努めたことなどから、令和3年の販売額はピーク時に匹敵する9億6千万円となり、経営のV字回復を遂げた。

・受賞者の特色

（1）アレキで培った高い栽培技術をシャインマスカット栽培に応用

アレキの施設栽培で培った早期加温技術をシャインマスカットにも応用し、休眠覚醒前の12月に加温を開始しても、発芽不良や花穂の減少を抑えられる作型を確立している。また、独自技術として全面堆肥マルチを実施し、樹勢強化や果粉の増加による外観向上につなげている。

（2）JA一元出荷体制による有利販売・ブランド向上

昭和55年にJA統一の検査体制へいち早く転換し、JA一元出荷を実現している。県内JAから出荷されるシャインマスカットの中でも品質の高いものを生産しており、ブランド強化や販売価格上昇に貢献している。

・普及性と今後の発展方向

ぶどうの高い生産技術に基づく高単価販売によって経営が安定し担い手の確保は順調である。今後も就農希望者が参入しやすい環境づくりを推し進め、技術継承と産地の強化を図っていく。天敵利用による農薬削減やヒートポンプの導入等による環境負荷の低減にも努めていく。